

5 本報告で対象とした重症事例（死亡に至らなかった事例）概要一覧

本報告では、死亡事例では把握できない事例の背景等も踏まえた分析を行うため重症事例（死亡に至らなかった事例）も調査を行っている。

地方公共団体において児童相談所や市区町村の虐待対応担当部署が虐待相談として受理した事例のうち、こどもの死亡には至らなかったものの「身体的虐待」等による生命の危険に関わる受傷、「養育の放棄・怠慢」のために衰弱死の危険性があり、令和5年10月1日時点で関わりが継続している事例を対象として原則1事例程度の報告を求めたところ、43事例の報告があった。

以下に概要を示す。

番号	事例概要
1	生後5か月 体重増加不全でネグレクトの疑いで一時保護を実施 保護者は意図的な育児放棄や暴力行為を否認
2	年齢不明 複数回の一時保護や施設入所の経緯あり 腹痛や嘔吐の症状発症の後、意識がなくなり痙攣、受診先の医療機関から通告
3	0歳 実母の揺さぶりによる AHT(虐待による乳幼児頭部外傷)の疑い 受診先の医療機関から通告
4	生後3か月 自宅で痙攣を起こし保護者が通報 きょうだいによる行為が原因である可能性も認めなかったが、虐待疑いとして対応
5	高校生 摂食障害疑いの本児への入院の勧めを保護者が拒否 児童相談所、本児所属先の高校、学校医が連携して介入
6	年齢不明 本児がきょうだいを追いかけてソファから転落、受診先の医療機関から通告 転落が受傷機転と判断ができず、虐待疑いで対応
7	年齢不明 心肺停止状態となり実父が通報 受診先の医療機関で古い骨折痕が認められ通告
8	生後3か月 上腕骨と肋骨の骨折で受診 受傷機転不明、頭蓋骨と肋骨にも過去の骨折痕あり一時保護実施
9	日齢 25 日 ミルクを飲まなくなったため医療機関を受診 脳浮腫、眼底出血などが認められ、虐待疑いとして対応
10	生後6か月 実母が本児を落下させ後頭部を打撲、救急搬送 保護者の説明と本児の受傷に差異があり介入
11	年齢不明 痙攣を起こし医療機関を受診、受傷時期の異なる骨折痕あり通告 受傷機転が明確にならず、虐待疑いで対応

番号	事例概要
12	年齢不明 痙攣のため受診、脳出血が認められたため、受診先の医療機関から通告
13	1歳2か月 要保護児童対策地域協議会で管理中に顕著な体重減少があり医療機関から通告 児童相談所、市区町村、本児の所属先が連携し一時保護を実施
14	年齢不明 呼吸不全で救急搬送、硬膜下血腫が認められたため受診先の医療機関から通告 保護者による激しい揺さぶり行為があったことを聴取、虐待疑いで対応
15	2歳8か月 保護者の知人からの通告により一時保護 顔面、前後体表に複数の傷や痣が認められた
16	年齢不明 健康診査にて体重増加不良を認知、医療機関への受診を促すも保護者が拒否 児童相談所、警察等と連携し、本児の一時保護を実施
17	年齢不明 硬膜下血腫、腹部の皮下出血のため救急搬送 法医学の意見等を踏まえ、本児の安全確保のため一時保護を実施
18	保育園児 顔がタオルで覆われ、てんかん発作様のため救急搬送。受診先の医療機関から通告 実母の交際相手の関与の可能性があり、虐待疑いで対応
19	1歳 自宅で痙攣疑い、止痙10分後に呼吸停止したため救急搬送 古い硬膜下血腫跡と新しい硬膜下血腫があり、顔面に痣が確認され一時保護を実施
20	年齢不明 顕著な体重減少と明らかな脱水症状にて受診勧奨を行うも、保護者が治療を拒否したため通告
21	学生 実父が竹刀で複数回殴打。頭部、前腕等に傷や痣が多数認められたため一時保護を実施
22	生後4か月 保護者が本児の左足の異常に気付き医療機関を受診、大腿骨骨折の診断 受傷理由が不明のため、受診先の医療機関から通告
23	4歳 顔面の痣について実母から相談 医療機関にて頭蓋内出血、硬膜下血腫、脳全体の損傷との診断
24	保育園児 本児の身体的状態が悪いなか速やかな受診がされず、保護者を説得し救急搬送 本児の福祉を著しく害すると判断し対応
25	乳児 臍の緒がついたままの本児がブランケットに包まれて放置 医療機関での一時保護を実施
26	1歳2か月 保護者がソファの下に本児が倒れていることに気付き、救急搬送 過去の関与状況も踏まえ、ネグレクトとして対応
27	0歳 心肺停止により救急搬送、低酸素脳症の疑い 過去の関与状況も踏まえ、一時保護を実施
28	年齢不明 保護者がクローゼットに本児を長時間閉じ込め、水分も与えずトイレにも行かせなかったと自ら 相談、育児・家事負担軽減等の支援を実施

番号	事例概要
29	保育園児 頬が赤いとの通告、胃腸炎と低栄養のため入院
30	9歳 保護者が本児を突き落とした
31	0歳 要保護児童対策地域協議会で管理 出産予定日を過ぎても連絡がつかず、自宅で出産(助産師の立ち合いなし)したことが判明
32	生後11か月 実父に蹴られ転倒、大腿骨頸部骨折 過去の骨折歴も踏まえ、本児の一時保護を実施
33	年齢不明 痙攣により救急搬送。複数の肋骨に古い骨折痕が確認され、受診先の医療機関から通告 保護者の説明と本児の受傷状況に差異があり、一時保護を実施
34	1歳 アトピー性皮膚炎の状態が悪く、敗血症、呼吸停止も保護者がステロイド治療を拒否 医療機関が通告。一時保護を実施し、治療を開始
35	年齢不明 実父が落下させたため通報 右頭頂骨骨折、急性硬膜下血腫、広範囲による脳損傷、両側眼底出血の診断
36	7歳 実母が首を絞めたことにより顔面うっ血、受診先の医療機関から通告 一時保護を実施
37	生後3か月 通行人より通告、重度の脱水と低血糖状態を認めた 保護者独自の養育方針の意識が強く、不適切な養育が行われる可能性があるため対応
38	生後3か月 泣き止まず目線が合わないため救急搬送 保護者の説明と本児の受傷機転に差異があり、一時保護を実施
39	0歳 授乳時、飲みが悪かったため救急外来受診 虐待の可能性があると、市区町村、児童相談所、医療機関等が連携して対応
40	0歳 実母が本児を刺し、救急搬送 実母の言動を踏まえ、精神科受診を予定していたなかでの発生
41	生後2か月 椅子から落下し痙攣、救急搬送 家族による揺さぶり行為の可能性があり、警察経由で通告
42	年齢不明 保護者が本児を床に落としたと通報 保護者の説明と本児の受傷状況に差異があり、虐待の疑いで一時保護を実施
43	生後9か月 肋骨や頭蓋骨の骨折あり、受診先の医療機関から通告 受傷機転が明らかでなく、保護者の説明と本児の受傷状況に差異があり虐待の疑いで対応